



オーストラリア Australia Assistant Japanese Teacher 日本語ボランティア

オーストラリアの学校では日本語及び日本文化の学習を異文化学習として積極的に取り入れているところが多くあります。中には日本語の専任スタッフや教材を豊富に揃えている学校もあり、そのような環境の中で育った生徒の中には高校生の終わり頃には驚くほどうまく日本語を話す事ができる人もいます。

日本語アシスタントの活動は母国語である日本語を生かして、現地受入校の日本語教育をサポートするものです。例えば小学校では主に日本文化を紹介したり、中学・高校では日本語教師の指示に従ってアシスタントを行います。

仕事はフルタイム、積極的に参加しましょう

アシスタントの役割は日本語教育や日本文化の紹介、また、授業以外にも学校のスタッフの補助、課外活動の手助けなどを行います。活動時間は週40時間以内を条件としています。オーストラリアでは日本語を語学の選択として積極的に取り入れているところが多く、アシスタントの活動は学校からも、生徒たちからも期待されています。

参加者のみなさんは子供達の将来に影響を与えることとなります。積極的に活動し、日本との良い掛け橋になれるように努力してください。時には本来のアシスタントとしての活動以外の仕事を依頼されることがあります。例えば受入校と姉妹提携の日本の学校から訪問団が訪れた時には通訳やコーディネーターとしての仕事を行う事もあります。柔軟に対応できるように心がけてください。

海外の日本語教育に関して

国際交流基金の2006年の調査によると、日本語学習者数が最も多いのは、韓国の約91万人、第2位は中国で約68万人(23.0%)、第3位はオーストラリアで約36万人(12.3%)です。この3か国で世界の日本語学習者数の3分の2を占めています。

しかし、人口あたりの日本語学習者数を考えると、韓国では52人に1人、オーストラリアでは55人に1人が日本語を学習していることとなります。これに対し、人口が多い中国では、およそ1,900人に1人、米国ではおよそ2,500人に1人ということになり、オーストラリア人の日本語教育比率が高いことがわかります。

学習者数の増減には、政治的、経済的、文化的な要因や、日本との関係の変化が影響していると考えられます。オーストラリアでは、高等教育機関における学習者数が増えています、そのほかの段階で減少しているようです。

国別日本語学習人口

- 1 韓国91万人
- 2 中国68万人
- 3 オーストラリア36万人
- 4 インドネシア27万人
- 5 台湾19万人
- 6 米国11万人
- 7 タイ7万人
- 8 香港3万人
- 9 ベトナム2万人
- 10 ニューージーランド2万人

(2006年国際交流基金調べ)

オーストラリアの教育体制

オーストラリアは人口約2000万人(日本の約6分の1)の国です。学校の数は約1万校。そのうち約60%が公立、約30%が私立(カトリック)校、約10%がその他の私立校です。

オーストラリアでは州によって教育制度が異なりますが、初等教育は、1年生から6年生までです。

2月始まりなのですが、日本の4月生まれが、その学年の最年長というような決まりはありません。日本で言う早生まれの子どもたちも、親の判断で義務教育を翌年にずらすという選択も許されています。

また、教科は日本とほぼ同じようなものなのですが、政府によって決められた教科書がありません。教師が作成したオリジナルのプリントや、市販のテキストなど、授業の進め方や子供たちの関心に合わせて工夫されています。子どもたちはノートだけでもって小学校に通学します。

中・高等教育では生徒ひとりひとりの個性を伸ばす教育に主眼が置かれています。オーストラリアの中学・高等学校教育は中・高一貫教育になっており、一般に7年生もしくは8年生から10年生までが中等部(Junior Secondary)、11年生・12年生が高等部(Senior Secondary)です。義務教育は10年生修了時までで、その後就職する人、TAFE(公立専門学校)や私立の専門学校に進学して職業訓練を受ける人がいます。



オーストラリアの教育方法で、日本の教育関係者の良いヒントになる特徴的なものが総合学習カリキュラム(Integrated Studies Curriculum)です。これは、グループで何か一つの課題について探求しながら、複数の教科を同時に学ぶ機会です。オーストラリアの教育現場で活動されるときには、是非、こうした取り組みを現場で学んでみましょう。

このプログラムを選ぶ理由

1992年から続く日本語教師アシスタントの特徴をご紹介します。



1. 地域限定だから安心です。

このプログラムの地域はニューサウスウェールズ州（シドニーを中心とした地域）とキャンベラが中心です。派遣地域を限定することにより、同じ学校が毎年連続してアシスタントを受入れるので、活動しやすく、現地の人たちも日本人をよく理解してくれます。

2. 地域コーディネーターの起用

学校の担任の先生とは別に参加者へ適切なアドバイスとサポートを行います。派遣先で問題が起こった際に、学校関係者とは別の立場でアドバイスをしてくれる人がいるのは心強いものです。

3. 格安でホームステイ滞在可能

このプログラムへ参加される方々には学校が特別料金でホストファミリーを提供しています。この滞在費は一般の英語学校でホームステイ滞する場合のおよそ半額となっています。ホストファミリーはその学校に通う生徒の家、またはその学校の先生の家で滞在する場合があります。ご自身でアパートに滞在したい場合には自己負担で滞在することも可能です。



4. 実践的な留学の機会

英語のネイティブを対象にした活動ですから、生きた英語に毎日接することができます。長期語学学校に通うと費用もかかります。長期、安価に英語と文化を学ぶために最適な環境です。



参加の為の注意事項

謙虚な気持ちと前向きな姿勢

ボランティアは自分の時間と能力を無償で提供する事が基本です。食事や宿泊を安価で提供してもらって「当然と」考えるのではなく、純粋にボランティア活動に興味を持ち、それに価値を見いだす気持ちをもって参加してください。

活動はフルタイム、月から金まで、学校の開講期間としています。活動の内容は先生と良く相談しながら、先生の方針を尊重して行なってください。

その学校の生徒の家にホームステイすることが多いので、通常は子供と一緒に通学し、一緒に帰宅することが多いでしょう。(時間によりご自身で行き来することもあります。)

子供達と本当に接していきたい。子供が理解しなくてもわかるまで頑張ってもらえる。そんな気持ちの優しさがアシスタントに求められます。

コミュニケーションと柔軟性

クリエイティブな考えを持ち、柔軟に異文化の違いを享受できる事が求められます。「日本人はこうだから」という意識をすて国際文化を享受する事が必要です。

他の国の文化や習慣を受け入れ、柔軟に対応するがアシスタントの適性として強く求められます。また、たとえ賛同できない場合でも個々の先生の教授法や考えを尊重し、自分の考えを押しつけたりしない事です。仕事以外でも現地の生活に早くなじめるように興味や勉強できる場を見つけてください。

学校によっては時間割及び授業内容を参加者が立て、各担当がそれに納得してからでしか活動を開始できないこともあります。自分自身の授業枠を確保するために先生と交渉することも有るわけです。

何もかもがお膳立てできているのではない事が現実です。担任の先生とのつきあい、例えば積極的な別の授業への参加や各担任の補助を行う事で、担任教師と参加者との間に信頼感と連携感が生まれてくるでしょう。



「日本」らしさ

日本から来た参加者にはは典型的な日本人(文化)を求められがちです。日本から来たのだから着物が着られて、踊りも踊れて日本料理が当然作れると思われがちです。

確かに小・中学校などでは授業で紹介できるような簡単な浴衣の着方や、身近な盆踊り、そして簡単な日本料理の作り方などは身につけておいた方が良いでしょう。しかし、日本の中にもいろいろな人がいる事を見せるのも別の意味で異文化体験につながります。

自分の得意な分野があればそれをうまく、授業、教材に生かす事ができるでしょう。

日本語ボランティアの活動内容

チームティーチング

オーストラリア人先生の日本語授業にアシスタントとして参加します。一般的にアシスタントの役割は表記や発音指導、写真やスライドを使つての文化紹介です。

グループごとに指導

クラスを小グループに分けてそれぞれのグループを受け持ちます。会話練習(ダイアログの作成、発音練習、ロールプレイ)、仮名/漢字カードゲーム、発音練習などを担当します。例えばクラスを3つに分けた場合15分ずつ同じ事を3回、各グループで繰り返す事になります。

特別指導

目的に応じて個人や小グループを特別指導します。たとえば、日本語スピーチコンテストに参加する生徒の面倒をみたり、授業についていけない生徒、反対に特に意欲のある生徒を個人指導します。

教材管理

授業に必要な教材づくりはアシスタントの大事な役目です。また、テスト期間中などで授業が少ないときに時間を有効に利用する方法にもなります。教材庫や図書館にあるもの、前任者がすでに作成したものなど把握しておくが無駄がないでしょう。



滞在期間中にサポートしてくれる人達

学校の担当の先生

学校が日本人のボランティアを受け入れる際には必ず担当の先生を決めていただき、参加者に指示、アドバイスを与える事をお願いしています。活動内容や授業の進め方は必ず担当の先生と確認しながら行って下さい。このプログラムにおいて一番重要な方です。日本語の先生や校長先生が担当となるケースが多いです。校長先生が担当の場合は各担任とも話し合いを持ちながら活動内容や授業の進め方を決めて下さい。ホームステイ先の決定は学校に一任しています。通常担当の先生を含め先生方は参加者に早く馴染んでもらう為にいろいろなパーティや催し物に誘ってくれる事が有ります。

ホストファミリー

活動期間中は活動校が選定したホストファミリー宅に滞在する事が基本です。滞在費用をファミリーに支払いますがこの料金は一般にオーストラリアでホームステイする場合よりも安く抑えられています。それは活動校のスタッフや生徒の家が、このプログラムの主旨を良く理解して、善意で受け入れをしてくれているからです。ボランティアの良き相談役にもなってくれます。ホストファミリーは通常1-3ヶ月ごとに替わります。

現地コーディネーター

学校調査と受入交渉がその役割です。しかし、アシスタントが活動中に困ったことがあった場合には担当の先生と話しをする事は勿論ですが、コーディネーターに相談する事も可能です。

★緊急事態(交通事故、重大な病気、犯罪など)が起こった際には必ずコーディネーターに連絡して下さい。コーディネーターがCECの代理として学校と協力し合つて緊急事態に対処していきます。

学校の学期にあわせて参加します。

オーストラリア日本語ボランティアへの参加のために

オーストラリアは2月に始まり、12月の中旬に学年が終了します。参加者の多くの方は6ヶ月間の活動と、英語研修や旅行を組み合わせています。

参加に関しては各学期の始まる4ヶ月前にはお申込を済ませていただくことが理想です。できるかぎり余裕をもって、正しく手配していくために、ご協力を御願いたします。

オーストラリア(NSW州公立学校)の学期

第1学期	2011年 1月28日－4月8日	2012年 1月27日－4月5日
第2学期	4月27日－7月1日	4月23日－6月29日
第3学期	7月18日－9月23日	7月16日－9月21日
第4学期	10月10日－12月20日	10月8日－12月21日

プログラムの料金、参加時期、条件等はCECのWEBで最新情報をご覧ください。

参加のためのビザの種類

ワーキングホリデービザ(WHビザ)を取得して参加

WH制度はお互いの国の文化、生活様式を理解することを目的とされ、1980年に結ばれました。18歳から30歳までの方がこのビザを取得可能です。このビザの利点は英語の学習はもちろん、その他の習い事を英語でしてみるもよし、ボランティア活動やスポーツ、観光など、1年間の滞在期間をどう過ごすかはあなた次第です。このビザを利用して、日本語ボランティアに参加できます。

※WHビザのルールで、同一学校では6ヶ月までしか活動することができません。ですから、このビザを利用してご参加される場合にはいろいろなオプションを考えて、充実した1年になるようにしましょう。たとえばこんなことが可能です。

- 英語研修2ヶ月、その後、日本語ボランティア6ヶ月、その後4ヶ月をシドニーやゴールドコーストで社会経験(アルバイト等)をしながら旅行などを続ける。
- シドニーの専門学校で日本語教師養成講座(11週間)に参加し、日本語教師の免許を取得、その後、6ヶ月間日本語ボランティアを行い、残りの3ヶ月を旅行やアルバイトなどで充実させる。
- 6ヵ月後、学校を移動して活動する。この場合、最初の学校でよい評価を受けることが大事です。

スペシャルプログラム416ビザを取得して参加

スペシャルプログラムビザ(サブクラス416)はオーストラリアにおいてボランティア活動を希望する30歳以下の外国籍者に取得を義務付けられているものです。日本人の場合はWHビザを取ることが可能ですが、どこの国の人たちにもWHビザが発給されるものではありません。そのために、このような、スペシャルビザを取得して参加することが必要になる場合があります。

この416ビザは現地の学校が貴方を受入れることを許可した期間のみのビザとなり、このビザで語学研修などをしたり、アルバイトなどをすることは禁止されています。また、学校での活動期間が終了したらすぐに出国することが原則です。